126 マシジミ　（シジミ科）　兵庫県ランク：要注目

Corbicula leana　環境省ランク：VU

種の概要

東北から奄美大島(おそらく国内移入)に広く分布し、河川や水路、ため池などに生息する。殻長30～40mmの亜三角形になる。殻内面は殻頂付近が青白く、殻縁に至って紺色になり、殻縁部には淡色の縁取りはほとんどない。雌雄同体の卵胎生。1980年代初頭までは極めて普通な種類であったが、この頃より大陸産のタイワンシジミ種群の定着に伴い、全国的に猛烈なスピードでタイワンシジミ種群に置き換わってしまった。殻の色彩変異がタイワンシジミ種群とオーバーラップするものもあり、同定を困難にさせている。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
○	△						○

県内分布

神戸市、西宮市、川西市、三田市、加古川市、西脇市、三木市、小野市、加西市、姫路市、たつの市、赤穂市、太子町、豊岡市、養父市、香美町、新温泉町、篠山市、丹波市、洲本市、南あわじ市、淡路市

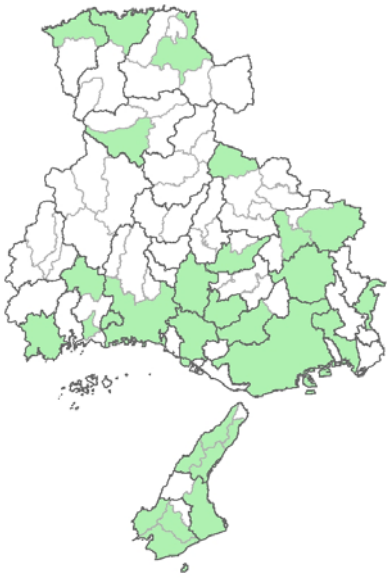
県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。広く分布する普通種であったが、1990年代に入って、食用に流通した大陸産のタイワンシジミ種群に急激に置き換わってしまったことは他都府県と同様である。現状では、タイワンシジミ種群の参入のないため池や日本海流入河川の小河川程度にしか現存していないと考えられる。なお、両者の分類には形態のみでは難を要することもあり、近年の県内記録においては不確実な部分も少なくない。

保護上の留意点

ため池においてはタイワンシジミ種群の参入は数例を除いて確認してないが、河川や水路においては爆発的に増殖、分布拡大を行うことで、阻止手段が見当たらない。継続的なモニタリングが必要である。

写真提供：増田修



写真提供：増田修

【執筆者】　増田修